

2015年度（平成27年度）

カラ事業報告書



ニャマコロブグー小学校3年生女子生徒

カラ東京事務局が移転しました。

新住所：〒177-0054 東京都練馬区立野町 7-9 クリオ吉祥寺壺番館 101 電話：03-3929-5767

2015年度事業も計画通りに進み、いよいよ今年度でトウグニ地域を離れることになりました。この地域に滞在したのは約15年と長期にわたりました。もう少し早く撤退できたかも知れませんが、移動は想像以上に困難でした。カラの目指す「人々の自立した生活へ向けての努力を支援する」という方向に向かって来たこれまでの支援は、ソフトな面ではほぼ完全に村の人たちの手に委ねることが出来るようになりました。

これまでの支援の成果を確認して不足を補い、将来は地域行政の下に移管し地域一帯で開発を進めるようになるには、これだけの年月が必要なかも知れません。人の力ではどうしようもない過酷な自然環境に左右された生活は、望まなくても出稼ぎに頼り、離村もありうることです。やはり人々は生まれた土地を離れたいと言います。私たちは、それらを考慮した支援であるべきと思ってこれまで続けてきました。今人々は収入を得、特に若い女性の出稼ぎは90%減少しました。個人的な利益だけにとどまらず、グループや委員会が一体となり地域に、また村に貢献するようにもなりました。

医療面では、出産時の妊婦の死亡がゼロになり、新生児体重が増えました。女性に大きな問題であるバース・コントロールについても、男性が理解を示すようになりました。ユニセフからの予防接種については、説明が不十分だったために特殊な噂が広がり誤解を招いていた為に、非常に低かった接種率が現在は、ある1部の人たちを除いて100%近い接種率となっています。父親が予防接種に子供を連れて行く姿も見られるようになりました。

支援事業は生きているものであり、人々に合わせて育て上げて行くものと思いますので、対象となる人々や事業内容にもそれぞれ個性があり、それらの成果を見極めて、支援を進める事であると考えます。その間には、想像していなかった事項の発展・展開がありそれをも含めて育てなければいけません。

2016年3月にはトウグニ地域の全村を訪問してカラの移動を説明しました。勿論コミン長にも説明し理解を得ました。

その折にトウグニコミン長から非常に高い賛辞がカラに与えられました。「これまで色々な支援がこの地域に入って来たが、カラのように確実に人々に影響を与え、成果を出してくれた団体はいなかった。カラの支



1994年植栽造成のバブグ村街路樹

援に依り人々に知識を普及し、その結果疾患は減少し、教育に対する理解が深まり就学する子供が増えた。社会的にも地域の経済状況は高まり、女性が力を付けた。カラの支援事業に対して非常に感謝している。」ということでした。

このような嬉しい、支援の甲斐があった、と思うような成果を得たのは、我々カラスタッフに一任して、支えて下さった皆様のご理解の賜物と深く感謝致します。

そして、カラを信頼して活動を真摯に受け止め、努力してきた村の人々の力にもよると思います。

カラは3月にジャワラを病気で失い、契約終了で2人の男性スタッフ、7人のアシスタントスタッフも現地を離れました。次年度からは、アワカンサイが主体となって保健事業を中心にダウンバコミュンで支援を継続します。ご存知の方も多いと思いますが、1994年当初からダウンバコミュンのバブグ村で2000年まで支援事業を行っていましたが、この度、再度支援を始めることになりました。過去には、住民の協力が乏しく労務賃を出さないと協力が得られない傾向にあり、積極性も低かったのです。

しかし、トウグニコミンに於ける成果を目・耳にして目覚めた感があり、保健事業の支援と学校建設の要請が強く、2015年度は2校の建設を行ないました。2016年度からは、改築したバブグ村宿舎にアワカンサイが住み、ダウンバ地域へのK会育成事業に尽力することになります。



ヤマブドウ

1: 学校建設

シンザニ中学校(3教室)とニヤマコロブグー小学校(4教室)が建設され、新規に開設しました。この事業は、外務省のN連支援無償協力の資金によるものです。

現在は、シンザニ中学校は新1年生だけです。他の2教室を教室不足の同村小学校へ貸しています。現在は中学生徒数が100名足らずですが、ダウンバ中学校からの転校も考えられています。

ニヤマコロブグー小学校も確実に風雨を防げる校舎が建設され、両親は安心して子供を学校へ送り出しています。学校自主管理委員会は、就学適齢期の児童を持つ家庭を戸別に訪問して就学を進め、義務教育化に努力しています。



シンザニ中学7年生試験中

ニヤマコロブグー小学校
2年生クラス、
アルファベットの書き方
を勉強しています。



一人の5年生の男子生徒が「古い教室は、強い風や土、砂が入って来てランチに家に帰った時に着替えて午後の授業に来たが、今は一日1枚のシャツでいい」と言っていました。

2. 助産師の誕生と産院の建設

バブグ村とニヤマコロブグー村に新規に産院が建設され、村出身の助産師が育成されたことは、女性の自立心を更に高め女兒就学率が上がりました。また、バブグ村産院には専用の井戸が設置され、出産時に妊婦の家族が水を運んで来る苦労も無くなりました。開設は村の都合で次年度になります。備品、薬剤、小器材等の必需品も揃い、安全な出産介助だけでなく、保健、病気予防の知識や意識の向上の発祥起点となるよう使用されます。



新規開設のニヤマコロブグー村産院の助産師
ウム クリバリ(26歳)

患者が来ない日でも、バブグ村女性代表が毎日見回りに来て、清掃を確認する程の気の入れようです。



新規開設のバブグ村産院の助産師ジャラ クリバリ(20歳)と彼女の赤ん坊と村の少年。

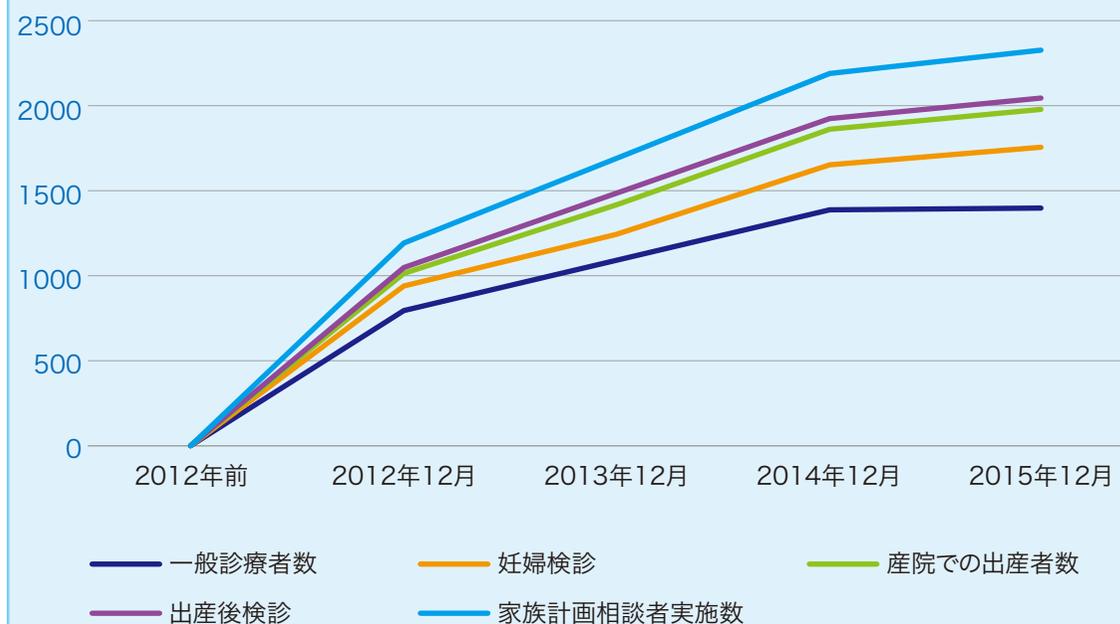
3. トウグニ地域の保健普及員の活動の成果

2008年来、3年間に渡るJICA支援で「K会・女性健康普及員」が育成され、各村で彼女たちの活動が非常な成果を出しています。次のグラフは、2012年3月からの育成されたK会メンバーの活動の一部ですが、それぞれの成果を表したものです。以前は、病気予防や衛生、その他多くの保健についての知識の普及は、無いに等しい状況でしたが、村の人が村の人へと定期的に行なう、話しかけに依る指導方式が成果をもたらしたようです。

最近日本で自宅出産も多く見られますが、マリの田舎では今でも殆どの村に助産師はいません。出産の時には経験者が妊婦の腕にツバを吹きかけて安全な出産をまじなうのです。妊婦は部屋の床が踏み固められた土であっても、成り行きに任せて何も敷ずに、そこに産み落とす(言葉は悪いのですが)のです。そして経過が長引く程状況が悪くなるので、臍帯が繋がったままで新生児と母親は死んでしまうケースが多くあります。

このような状況ですから村に正しい知識を持った助産師と産院が絶対的に必要になります。マリ政府は産院での出産を奨励していますが、人員も施設も全く足りない状況が現在も続いています。グラフでご覧いただけるように女性の保健普及員の活動は非常に成果をもたらしています。

トウグニ地区 出産関連事項の意識普及の発展状況



栄養指導の準備をする普及員たち

資産の部 (単位:円)		負債の部 (単位:円)	
勘定科目名	総計	勘定科目名	総計
(流動資産)		短期借入金	2,000,086
現金	188,886	預り金	
普通預金	34,361,510	未払法人税等	
郵便貯金	46,429	負債の部合計	2,000,086
前渡金	81,300		
流動資産合計	34,678,125	正味財産の部 (単位:円)	
(固定資産)		勘定科目名	総計
債権	0		
定期預金			
車両運搬具	5,254,212	指定正味財産合計	0
器具備品	682,090		
減価償却累計額	-4,771,373	一般正味財産合計	34,073,408
電話加入権	76,440	正味財産の部合計	34,073,408
事務所保証金	154,000	負債・正味財産の	36,073,494
固定資産合計	1,395,369		
資産の部合計	36,073,494		

上記第14期の会計については、正確、且つ適正に処理されていることを確認いたしました。

平成28年5月29日
 滝口洋子 監事
 神山邦子 監事

日本国内における活動の報告

- ・5月15日 【SI 町田チャリティーコンサート】にて活動紹介
- ・5月16日 【明星大学にて】にて講演
- ・5月24日 【東京白梅会】にて活動紹介
- ・5月27日 【SI 伊那 創立20周年記念式典】にて活動紹介
- ・6月20日 【SI 埼玉 クラブユースフォーラム】にて講演
- ・7月21日 【岩手県立紫波総合高等学校】にて講演
- ・8月10～21日 研修生受け入れ
- ・8月28日 【SI 東 リジョンユースフォーラム】に参加
- ・9月29日 【ワールドファミリー基金】にて事業報告
- ・10月13日 【新潟県村上市 いきな倶楽部】にて講演
- ・10月20日 【日本中近東アフリカ婦人会バザー】にて活動紹介
- ・10月31日 【盛岡ふるさと会】にて活動紹介
- ・11月1日 【東京都女性歯科医師の会】にて活動紹介
- ・11月1日 【岩手紫波ふるさと会】にて活動紹介
- ・2月9日 【武蔵野市 いこいの会】にて講演
- ・2月28日 【かけはし2016】開催

収入の部	平成27年度予算	平成27年度決算	平成28年度予算
会費収入	850,000	780,000	850,000
寄付金収入	4,000,000	6,828,744	6,000,000
事業助成金収入	35,000,000	36,078,543	1,820,000
補助金・その他の収入	1,000,000	200,000	500,000
受け取り利息	700	588	700
短期借入金収入	0	2,000,086	2,000,086
前期繰越収支差額	16,345,911	16,345,944	34,678,125
収入の部合計	57,196,611	62,233,905	45,848,911
支出の部			
海外事業費			
1)水資源確保事業費	1,200,000	1,333,555	0
2)保健衛生病気予防	1,300,000	1,350,000	200,000
3)女性自立支援事業	0	0	0
4)教育の普及/学校建設/他	25,000,000	5,510,790	22,931,366
5)野菜園	0	0	470,000
6)環境保全事業	1,300,000	1,183,967	470,000
7)地域経済活動支援事業	0	0	0
8)監査法人監査費	300,000	359,675	368,800
9)プロジェクト傭人費	4,200,000	2,816,232	2,133,400
10)プロジェクト運営管理費	5,404,220	5,634,766	7,354,725
11)マリ事務所経費	4)に含む	1,272,831	449,430
12)短期借入金返済支出	1,429,494	0	2,000,086
13)為替 差損	25,000	49,713	30,000
マリ側合計支出 ①	40,158,714	19,511,529	36,407,807
国内事業費			
1)広報啓発費(事業費)	500,000	809,952	600,000
2)管理費	9,500,000	7,176,799	6,000,000
3)短期借入金返済支出	0	0	0
4)法人税及び住民税	0	0	0
5)諸会費	55,000	55,500	0
日本側合計支出 ②	10,055,000	8,042,251	6,600,000
本年度支出合計①+②	50,213,714	27,553,780	43,007,807
次期繰越収支差額	6,982,897	34,680,125	2,841,104
支出の部合計	57,196,611	62,233,905	45,848,911

28年度(2016年度)事業の計画

事業項目	活動地と活動詳細
A：マリ共和国	
1. 学校建設	モバ村、コニナ村小学校に各3教室増築、 ゲンドウ村、ダウンギネ村に小学校を新築、 上記4校の学校自主管理委員会への業務指導
2. 環境保全	カチョラ小学校、モバ小学校の学校林のケア
3. 野菜栽培	シンザニ村野菜園への浅井戸2基掘削
4. 保健事業	①バブグ村、及びニヤマコロブグー村産院の運営管理 ②保健自主管理委員会の業務指導 ③助産師の業務指導(会計記載も含めて) ④ドゥンバ地域「K会・女性保健普及員」の育成研修会
B：国内	
1. 講演会、その他の広報	機関紙発行、講演会の開催、その他
2. アワの来日に関する関連事項	宮城学院創立130周年記念式典出席、仙台市内での講演会の実施と、カラ助成元への活動の報告、その他

特定非営利活動法人 **カラ=西アフリカ農村自立協力会**

<http://ongcara.org/>

東京事務局

〒177-0054

東京都練馬区立野町7-9 クリオ吉祥寺壺番館101

Tel:03-3929-5767

E-mail: centre@ongcara.org

バマコ事務局

BP E367 BAMAKO MALI

Tel:223-2020-9096 Fax:223-2020-3589